# The 15th Congress Japanese Society of Tissue Transplantation
# Abstract Form

For standardization, please fill out this form within 2000 characters, author's details and lecture title included. This also includes non-visible characters such as spaces and punctuation.

Name and position:
常傳訓 (Chuan-Hsun Chang) 外科部長

Dept. and organization:
台湾台北振興医療財団法人振興病院 外科部

A brief summary of your career:
1995 日本国立がんセンター研修医
1996 イタリア国立パヴィア大学肝胆膵外科研修医
2000 アメリカテキサス州立大学 MD アンダーソンがんセンター乳腺腫瘍医学研修医
台湾台北振興医療財団法人振興病院外科部長

Lecture title:
2015 年北台湾カラーパウダー爆発事故による大量熱傷者対応の臨床経験 ～ 日本医師会からの支援団とともに

Abstract:

北台湾 Color Play Asia 彩色粉パーティ中、疑似玉蜀黍澱粉及び色素粉にする粉塵爆炸イベントが起引した火災事故である。このイベント事故は計 14 人死、484 熱傷にかかり、1999 年 921 大地震以来、罹患数がつぎに多い事故である。統計にすると平均熱傷面積が約 44%。熱傷面積が 40%以上のが 248 名、中に 80%以上が 24 名います。多くの傷患者は皮膚移植し、災後 7 日目、台湾のスキンバンクが尽き、急いでオランダ、アメリカのスキンバンクに計 110 萬 cm2 のスキンを購買しました。事故後 9 日目日本赤十字が台湾赤十字を通じて 2730 枚の人工スキンを贈リ、治療に当る病院へ配る。事故後 12 日目、振興医院の理事会がキリストの路竹会を通じて、日本医師会の「三学会聯合熱傷医療後援医師団」を招き、計名大医学研究所の松田直之教授、横浜市立大付属市民医療センターの春成伸之准教授、帝京大救急医学の池田弘人准教授、慶応大救急医学の佐々木淳一講師、名大医学研究所の日下琢雅助教、川崎医大急救部の山田祥子助教らが 16 日目に来台、18 日目に振興医院に来られ、傷患者の治療に当って指導して頂きました。日本医師会の後援医師団からのアドバイスは 1）皮膚移植 2）デブリード 3）VAC の使用時期 4）感染コントロール 5）急性期の循環管理げあります。

事故後 22 日目、アメリカ Johns Hopkins University 大、熱傷医学チーム、熱傷センターチフの Stephen Milner、緊急医療准教授の Cristina Catlett、熱傷外科の Dr. Denver Lough、麻酔科、重症急救医学の Kevin Gerold 准教授、職能治療師の Linda Ware、看護師の Theresa A. Lynch らが、治療に当る病院へ見まわり、第 28 日目に当院に指導に来て頂きました。

当院は、心臓移植症例が 400 例を持つ病院で、台湾心臓医療のメイン Hosp.であり、通常が熱傷患者は受入れてませんが、このたび、19 名の患者を受入れ、6 位は熱傷面積が 60%強、2 名が 80%超、4 位が呼吸器熱傷を合併し、呼吸器を使いました。台湾医学のデータにすると約 17%の死亡率なので、患者家屬及び医療チームにはストレス大変大きい。幸いに日本医師会に派遣頂いた松田直之教授、春成伸之准教授、

池田弘人准教授らが当院に御来院、指導頂き、患者の傷は迅速恢復、感染リスク減に役立つ。80％強の熱傷患者の皮膚移植の困境に直面し、日本医師会及び JACE が無償で 20 名患者の皮膚移植のチャンスを与え、東京医大の松村一教授、横浜市立大の春成伸之准教授、JACE 産品マネージャーの Masukazu Inoie、JACE のセル・マネージャの Yuichi Itaharu らが皮膚移植のために 3 度と御来院。当院のある熱傷面積 80％超の 16 歳男孩に自体皮膚移植、被せる 20％の皮膚を行い、同じの患者を早めに 1～2 個月退院、傷痕が攣縮せず、リハビリも弾力衣を着る事なく自由に生活しています。日本医学会が最新皮膚移植技術を用い、台湾の熱傷患者の治療をし、台湾医学界及び当院治療の考えと経験をアップして下さりき、ここに感謝致します